

[第 134 回藤樹人間学塾のご案内]

皆さま

令和 5年 1 月



主 催 NPO法人高島藤樹会

- 日 時 令和 5年 2月 4日(土) 15時～17 時
- 場 所 高島市安曇川公民館(高島市安曇川町田中89) ☎0740-32-0003
- テーマ 「藤樹先生に学ぶ人間学」
テキスト 中江藤樹著・加藤盛一校註『鑑草』(岩波書店)p.200～(用意します)
塾 長 田中 清行 (090-1026-7882)



本塾は藤樹先生の教えを学び、人間いかに生きるべきかを共に考える形で進めています。

- 1月、安曇川公民館で第 133 回人間学塾を開きました。今回は大阪、京都からの参加の方を入れて 10 名でした。

■ テキスト

中江藤樹著『鑑草』の第四巻 教子報の総論、第 1 話

■ あらすじ

総論 教子とは、子供に道を教えてその明德仏性を明らかにさせることである。第 1 話 王季の妃である大任は、慈悲深い人で胎教をよく行われたので、その子の文王は聖徳を得、その子孫の周王朝は 800 年も続いた。

■ 配布資料

- (1) 森信三「人生の意義」、(2) 山中伸弥・野口聡一「人類はどこに向かおうとしているのか」、(3) 稲森和夫「人は何のために生きるのか」

■ 今日のポイント

- ・ 子供を教育するとき、幼少のときは、行いや戯れなどはその子供に任せ、心が悪く染まらないようによく教えるがよい。成人してからは、明德を明らかにする工夫に努めさせる。
- ・ 胎教とは体内に子がいるうちの教育であり、気が集まり、形が定まる最初であるので大変重要である。
- ・ 人間は自分の力でこの世に生まれ出たものではない。宇宙に内在している根本生命の力によって生み出されたものであるから、この世に生み出された意味を考える必要がある。
- ・ 山中伸弥氏、野口聡一氏というスーパーマンの 2 人が目指されているものは、自分が心の底から実現したい目標に向かって一所懸命努力し続けるということであった。
- ・ 稲森和夫氏は「善きこと」を思い「善きこと」を実行することに取り組んで来られて素晴らしい功績を挙げられた。人生の目的は、魂を磨くことだと言われている。

■ フリートーク

「3000 年も前に胎教が行われていたことに大変驚いた。数え年の考え方は体内に生命が宿った時から数えるので胎教と一致する」

「藤樹先生が、子供はのびのびと育てることが良いといわれていることに感心した」

等の意見をいただきました。ありがとうございます。皆で学ぶと議論が深まります。

学ぶは愉し！人間学に関心のある方はどうぞご参加ください。参加費は無料です。